

糖尿病・内分泌・代謝内科

1. スタッフ

科長（兼）教授 下村 伊一郎

その他、教授1名、准教授4名、講師4名、助教14名、
医員39名、病棟事務補佐員1名

（兼任を含む。また、准教授、講師、助教は特任、寄
附講座を含む。）

2. 診療内容

当科においては、糖尿病、肥満症、脂質異常症、痛風（高尿酸血症）等の代謝性疾患、間脳下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎皮質及び髄質疾患、性腺疾患、骨粗鬆症等の内分泌疾患を対象としており、専門診療に加え、種々の専門的検査を行っている（表4）。当科の特徴としては、メタボリックシンドロームを中心とした生活習慣病の病態精査と適切な治療による合併症発症及び進展の予防を実践し、患者の一生に関わる医療を目指していることが挙げられる。病棟では、内分泌疾患検査やインスリン治療導入のためのパス入院コースを用意する一方、糖尿病患者への持続皮下インスリン注入ポンプ及び持続血糖測定器を用いた治療、診断／治療が困難な内分泌・代謝疾患症例などの診療に貢献している。

3. 診療体制

(1) 外来診療（表1参照）

内科2階東外来（10～14診）において毎日（月～金、午前・午後）実施。糖尿病合併症外来を設け、生命予後やQOLを左右する細小血管合併症（網膜症・神経障害・腎症）や大血管障害の診断・治療を積極的に行っている。2018年からは糖尿病センターが稼働し、医師・看護・栄養師等のメディカルスタッフが一体となり、糖尿病教室や療養指導の実施や糖尿病・肥満などに対する栄養指導などにより、糖尿病患者の全身ケアを行うことを目指している。甲状腺診療では、バセドウ病、橋本病等の代表的疾患の診断及び薬物治療、バセドウ病・甲状腺癌のアイソトープ治療、甲状腺・副甲状腺疾患の超音波検査及びシンチグラフィ、甲状腺結節性病変の確定診断のためのエコーガイド下穿刺吸引細胞診を実施している。下垂体、副腎疾患についても、高度な検査、診断技術により、大学病院ならではの専門的な診療を行っている。

(2) 病棟診療

責任病床数28。病棟医長（講師）、副病棟医長（寄附講座准教授）、シニアライター6名、ジュニアライ

ター10名、専攻医1名、研修医2～3名で診療に従事。

科長（総）回診（金曜午後）、専門回診（火曜13時30分～）、カンファレンス（火曜日17時30分～、木曜日16時～）を実施し、質の高い診療を誇る。

4. 診療実績

- (1) 外来診療実績（表2参照）
- (2) 入院診療実績（表2参照）
- (3) 検査・治療件数（表4参照）
- (4) 先進的医療

脾・脾島移植：本院は脾移植実施施設で、その適応評価や移植後の血糖管理を中心とするフォローアップを行っている。糖尿病大血管症における遺伝子情報に基づいたオーダーメイド型抗動脈硬化療法といった先進的医療の開発も行っている。日本糖尿病学会1型糖尿病調査研究委員会事務局であり、劇症1型糖尿病など全国の施設からの紹介に応じている。

厚生労働省関連の各種先進的臨床プロジェクトは表3のとおり。

5. その他

(1) 専門医・認定医

総合内科専門医	19名	内科認定医	56名
糖尿病専門医	40名	内分泌代謝科専門医	14名
甲状腺専門医	5名	肥満症専門医	2名
臨床検査専門医	4名	動脈硬化専門医	2名
老年病専門医	1名	循環器専門医	1名

(2) 専門医教育認定施設等

- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本内分泌学会認定教育施設
- 日本肥満学会認定肥満症専門施設
- 日本甲状腺学会認定専門医施設
- 日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設
- 痛風協力医療機関（公益財団法人痛風財団指定）

(3) 教育、ボランティア活動

糖尿病患者の療養指導のため、糖尿病教室の運営を行い、患者の栄養相談や食事指導を行っている。糖尿病患者の組織「大阪大学あけぼの会」の運営を支援し、大阪糖尿病協会顧問医として糖尿病患者教育及びメディカル教育に貢献している。また、最近発足した大阪糖尿病療養指導士認定機構によるコメディカル教育にも貢献している。さらに、大阪地区の実地医家を

対象に展開されている大阪糖尿病アカデミー（ODA、日本糖尿病財団後援）の運営を行い、地域実地医家の糖尿病診療をバックアップしている。他、1型糖尿病児童を対象とした糖尿病性合併症を含めた健診、小児生活習慣病健診を毎年実施、また小児糖尿病サマーキャンプなどにおいてボランティア活動を行っている。

(4) 出版等

以下の出版や活動を行い、同分野における診療・教育に社会的貢献をしている。

- ・内分泌代謝診療疾患・糖尿病診療マニュアル・改訂版（医薬ジャーナル社）
- ・新やさしい糖尿病の自己管理（医薬ジャーナル社）
- ・やさしいインスリン治療の自己管理（医薬ジャーナル社）
- ・やさしいメタボリックシンドロームの自己管理（医薬ジャーナル社）
- ・やさしい糖尿病の外食のコツと心得（医薬ジャーナル社）
- ・よくわかる糖尿病のフットケア（医薬ジャーナル社）
- ・動脈硬化早期診断のためのホームページの運営（<http://www.lmt-ca.com/>）
- ・肥満を伴う2型糖尿病のマネジメント 月刊糖尿病（医学出版）

表1 外来担当表

内科 2階東（10診～14診）

		月	火	水	木	金
10診	午前	甲状腺	糖尿病脂質	内分泌	糖尿病	糖尿病内分泌
	午後	糖尿病	ウエイトマネジメント	内分泌糖尿病	糖尿病	糖尿病内分泌
11診	午前	糖尿病	糖尿病脂質	糖尿病脂質	糖尿病内分泌	糖尿病
	午後	糖尿病	糖尿病	糖尿病脂質	糖尿病	糖尿病
12診	午前	糖尿病内分泌	糖尿病	甲状腺	糖尿病内分泌	糖尿病
	午後	糖尿病内分泌	糖尿病		糖尿病脂質	内分泌
13診	午前	糖尿病	甲状腺	糖尿病脂質	糖尿病	糖尿病
	午後	糖尿病内分泌	甲状腺	糖尿病脂質	糖尿病	糖尿病
14診	午前	糖尿病内分泌	内分泌糖尿病	糖尿病脂質	内分泌糖尿病	甲状腺
	午後	糖尿病内分泌	内分泌糖尿病	内分泌糖尿病	内分泌	糖尿病合併症

表2 外来及び入院症例（令和元年度）

(1) 外来患者総数（延べ）	40,146名
(2) 入院患者総数（延べ）	1,818名
【疾患名（主病名）】	
内分泌疾患	
下垂体疾患	150名
甲状腺疾患	10名
副腎疾患	109名
その他	38名
糖尿病、代謝疾患	
肥満症	13名
糖尿病	1,464名
その他	34名

表3 厚生労働省関連先進的臨床プロジェクト

(1)	厚生労働省難治性疾患等政策研究事業：「間脳下垂体障害に関する調査研究」
(2)	厚生労働省難治性疾患等政策研究事業：「副腎ホルモン産生異常に関する調査研究」
(3)	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「1型糖尿病の実態調査、客観的診断基準、日常生活・社会生活に着目した重症度評価の作成に関する研究」
(4)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）「糖尿病 MCI 患者のアルツハイマー病移行を抑制する糖尿病治療法の検討」
(5)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）「難治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創出」
(6)	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業：「肥満症に対する効果的な治療戦略と健康障害の改善に資する減量数値目標を見出すための介入研究」
(7)	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業「血糖変動と心血管イベント発症の関連性を検討する前向き観察研究」
(8)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）「2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験介入終了後の追跡研究」
(9)	国際医療研究開発費「難治性および悪性副腎疾患の疾患コホート形成と診療の質向上に資するエビデンス創出（ACPA-J）」

表4 年間実施件数

(1)	頸動脈超音波検査（約520症例）
(2)	インピーダンス法による内臓脂肪面積測定（約320症例）
(3)	甲状腺・副甲状腺超音波検査（954症例）
(4)	甲状腺穿刺吸引細胞診（126症例）
(5)	ヨードシンチグラフィ（74症例）
(6)	睡眠時ポリソムノグラフィ（63症例）
(7)	糖尿病合併症外来（42症例）